

上京

史蹟と文化

2006 VOL. **31**



美を語る

上京を画いた名画

「北野の裏の梅」(入江 波光画)

鷹ヶ峯の奥に水源を発する紙屋川は右京区あたりでは天神川と呼ばれています。上京区では紙屋川と呼ばれます。『源氏物語』に紙屋川で漉かれた紙という意味でしょうか、「紙屋紙」に書かれた手紙や和歌の話が登場します。北野神社の裏には朝廷専用の紙漉場があったと伝えられていますが、古代には十分な水量と紙を漉くに適した清流が流れていたのでしょうか。

大正時代から昭和初期にかけて、京都に在りながら院展の画家として活躍した畠田溪仙という人がいます。九州・博多の出身で、京都に出て都路華香に師事した人ですが、晩年は嵐山の大堰川畔に住んで、京都や奈良の名所を多く画きました。若い頃、油小路中立売下ルに住んでいたことがあり、その頃の思い出話が、『溪仙八十一話』(下店静市編・大正十四年改造社刊)に出ています。それによりまずと、溪仙は早朝に起きて、北野神社に詣で、ついでに神社裏手の紙屋川の溪に架けられた茶亭に寄り、主が開けてくれた茶室で一服して帰るのが日課だったといっています。

「梅の頃は窓に倚れば溪間の香ひほころびたる梅花を賞すること



美術史家

加藤 類子

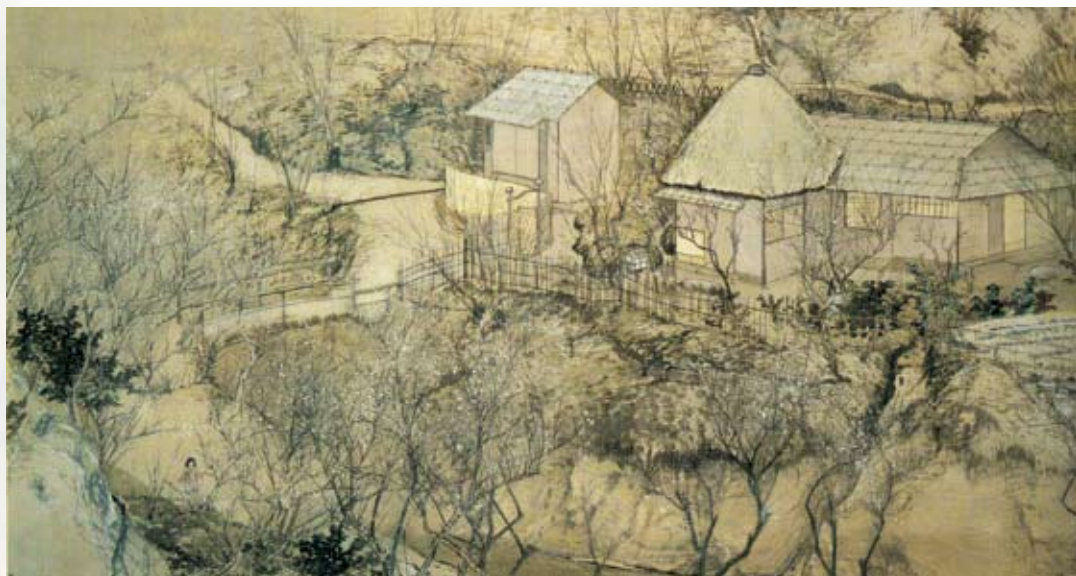
が出来る」と溪仙が書いている場所は、溪仙とはほぼ同世代の画家入江波光が、明治四十四年、京都市立絵画専門学校を卒業する時に、卒業制作として画いた〈北野の裏の梅〉によって知ることが出来ます。波光はこの紙屋川の下手、御前通丸太町上ルに生まれ育ちました。この作品では、紙屋川を中にはさんで、対岸の茶亭らしき建物のたたずまい、手前のほかに咲きはじめた梅林、川岸にひとりりで遊ぶ童女などが、色の少ない、繊細な筆使いで画かれています。僅か二十三歳の画学生の作品としては、驚くほど地味で大人びた印象です。

波光は京都市立美術工芸学校研究科の学生であった十九歳の時、文部省の主催で始まった日本最初の官設展、文部省美術展覧会(文展)に入選していますが、波光はけっして展覧会での栄光を追い求める人ではありませんでした。黙々と自らの絵の世界を磨くことが、波光にとつての、楽しみであったかと思われまふ。しかし彼は、ただ伝統の技に閉じこもろうとする、いわゆる職人氣質の人でもありませんでした。日本画の技術と同時に、新しい

海外の思潮や美術の動向、個性の尊重などを教えた絵画専門学校の教育によって、従来の画家たちより遙かに広い視野を得ていま

た。一見古風な、〈北野の裏の梅〉にしても、先代から伝習されてきた筆法や約束事は殆ど見あたりません。銜てらいのない誠実な写生と、画面左下の遊ぶ童女が象徴しているような、近代的な「憧憬」や「孤独」がここには表されています。

波光は大正七年に土田麦徳つちだむく、小野竹喬おのちきよ、榊原紫峰さかばらむらさき、村上華岳むらかみからが結成した「国画創作協会」の運動に賛同して、その会員となりますが、初めから会員として参加することなく、一般の公募によって出品し、入選することによって会員に推挙されたのです。国画創作協会展（国展）には、大正十一年の渡欧をはさんで第一回から最終の第七回まで出品を続けました。前半はインド・アジャンターの石窟寺院の壁画や西洋中世の宗教画の研究を生かした作品、後半はイタリアの古代遺跡や遺物を実際に見た目によって、明るく、ロマンチックに彩った作品を画きました。しかし、昭和三年、国画創作協会が経済的な困難を伴って解散しますと、その後の波光は、絵画専門学校えがくせんがっこうの学生たちの指導と、最も彼の愛した古画の模写の事に没頭してゆきました。



入江波光作 北野の裏の梅 1911年 京都市立芸術大学蔵

昭和十五年、波光は文部省から、法隆寺の金堂内壁画の模写事業に参加するよう依頼を受けました。結果的には、壁画の焼失と

いう一大損失を招くことになる（昭和二十四年一月二十六日）事業は、それぞれ抽選によって受け持つ壁面が決められ、東壁釈迦淨土を中村岳陵班なかもらがりょう、西壁阿弥陀淨土（六号壁）を入江波光班、北面西部壁弥勒淨土を橋本明治班はしもとめい、北面東部壁薬師淨土を荒井寛方班あらいかんぽうが担当しました。この仕事が決まっていたから波光は、他の仕事を殆ど断って専念しましたが、その完成を見ることなく、昭和二十三年六月に他界しました。

模写は地道な作業です。たとえ完成しても、本人の充足感こそあれ、画家個人の「作品」ではありません。しかし、波光が古代の画家たちとの、壁画を通しての対話に無上の喜びを感じていたことは、周辺にいた多くの人々の語るところです。波光にとつて、壁画の焼失は耐え難いことだったでしょう。その悲劇を見ることなく他界したことは、せめてもの幸せだったと思います。同時に、〈北野の裏の梅〉という初期の作品が、この画家のストイックな、異色とも見える画業の生涯を象徴する存在であることに、今更のように思い至るのです。

大小路 上御霊前通

現在の上御霊前通は賀茂川右岸の加茂街道から始まりますが、かつては寺町通を起点としていました。近年このあたりが住宅地として開発さ

れるとともに新しく開かれたのです。戦前の京都地図では突き抜けて

いません。上御霊前通という通り名は、もちろん御

霊神社（上御霊神社）に由来します。古地図には上御

霊図子とあり、この周辺の町名に「上御霊」が冠されているのも、

付近が「御霊の森」という大きな森であったからです。

御霊神社については、本誌二八

号の烏丸通で取り上げたので重複を避けませんが、平安時代初頭に創

建以来、その位置を動いておりません。その境内地が御霊の森で、室

町時代でも南を相国寺の藪と接す



上京の史蹟シリーズ
上御霊前通

るほどで、応仁の乱の発端となった戦では、陣を構えていた畠山政長軍が要害の地として同族の畠山義就と家督を争ったのでした。



上御霊馬場の御用水

大小路 御用水

御霊神社の南側の広い道は上御

霊馬場といわれ、道の北側の石柵と境内地の間に小さな堀がありま

す。最近はこのイチハツが植えられ紫色の花を咲かせています

が、この堀が御用水の名残りなの

大小路

(その13)



東へ折れ、寺町通との間で南へ流れを変え、相国寺の境内を通過していました。明治末期の『京都坊目誌』では、このあたりで幅員四尺、水深五寸と記されていて、現在の堀と一致します。この部分だけが残り、その前後は埋立てられてしまいました。

です。今ではこのこと相国寺の境内にその姿を止めております。北

は遠く賀茂川から取水し、畑地の農業用水として利用されながら、

ここまで南下してきました。江戸時代の古地図によると、鞍馬口通

を越えたあたりから曲折して御霊神社の西に至りました。そこから

りから南へ、弁天堂の脇を通り、塔頭の光源院と玉龍院の

前を総門に至ります。放生池の取水口も大きな役割を果たしていたことがわかります。また、この北方の

承天閣美術館の増築工事の際の発掘調査でも御用水の跡が発見されています。

総門のところまで下水道につなが



相国寺の御用水

がつているようで、それから先の水路は現存しません、参道の東側から今出川御門を公家町へと流れていました。御用水といわれる

のは御所の用水の意味で、御所へ水を供給する水路なのでした。

なお、この分流は寺町通りを南下して中川になったり、今出川通を鴨川へ向けて流れていたことが江戸時代の古地図からわかります。今のように上下水道が無かった時代には、こうした多くの水路が京都の郊外から市街地へと貫流していたのです。

大路小路
光琳屋敷と
猿田彦神社

御霊神社の前、北側に「緒方光琳宅蹟」の石標が立っています。

江戸時代前期に琳派という独特の画風で一家をなした緒方（尾形）

光琳（一六五八—一七一六）が晩年を過ごした中町藪内町の屋敷を記念する石標ですが、実際はここ



光琳屋敷跡碑

より西、今の烏丸通とその東側にありました。光琳が死去した翌年、財産を譲られた妻尚貞が他人に売却しており、その際の証文に、表口七間二尺、裏行二十四間、東は御用水川限とあって、その規模を知ることが出来ます。この場所は烏丸通にかかりますが、その頃の烏丸通りは寺之内通が北端でした。ここは光琳の最も充実した時期の作品が創られた遺跡として上京の誇りとしたところでは、おそらく天明八年（一七八八）の大

火で焼失したと見られます。上御霊前通を烏丸通へ出る南側に猿田彦神社があります。小さな祠ほくらと思われそうですが、戦前は村社の社格が与えられていました。かつては広大な境内であったと伝え、将軍家より小山郷柏木村が神



猿田彦神社

事料として寄進され、猿田彦神さるたひこと天鈿女命あめのうずめのみことを祀り、皇室の崇敬も篤く、皇居造営の際には地鎮の神事も執り行われました。しかし、応仁の乱に全焼し、その後も度々の大火に遭い、現在のような小社となつてしまいました。その由緒は社格に表されて今に伝えられているのです。

このあたりからの上御霊前通は寛永十四年（一六三七）の『洛中絵図』のままの姿を今に伝えています。

大略 擁翠園と 妙覚寺

衣棚通を過ぎると、民家の北側に擁翠園があります。入口は北

区の鞍馬口通にあります。入口は北は上京区内です。ここは後藤長

乗（一五六二―一六一六）という金工家が徳川家康から旧岩栖院の土地を与えられました。後藤家は

古くから刀剣の金工の家として領地を与えられていましたが、承久

の変で北条氏に没収され、室町時代には管領細川満元の屋敷となっていました。満元の死後、岩栖院

し、一時は三井家の別邸となりましたが、最近まで京都貯金事務センターの近代的な庁舎の庭園として、時折一般にも公開されてきました。三百年間、度重なる改修により姿を変えながらも立派な庭園として今に至っています。

残念ながら、郵政改革のあおりで京都貯金事務センターが廃止されて見学もままならず、今後の行方が注目されています。何とか現状が維持されて保存されることを願うのみです。



妙覚寺

小川通の手前には妙覚寺があります。その南は妙顕寺ですが、『寛永洛中絵図』ではこの間に道路がなく、上御霊前通はここで終わっています。この両寺は立本寺などとともに日蓮宗京都十六本山の一つです。この付近に寺院の多いのは平安宮（大内裏）の廃退した後、

内野となった荒地地から北へ続く農耕に適さない土地や、秀吉の都市改造による寺之内通へ集められた都心の寺院に加えて、異宗派の迫害により京都から退去せざるを

葉匠

本宗 玉壽軒

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319・414-0319

—いつも新しい感動を—

京都御所西、閑静な住宅街に溶け込むシックな外観。
さわやかな水のせせざきが聞こえ、
やわらかな自然光がふりそそぐアトリウムロビー。
7つの多彩なレストラン&バーで、
ブライتن流のきめ細やかなサービスをお届けします。

〈客室〉183室
〈レストラン&バー〉

- 京懐石「壺（はたる）」 ●鉄板焼「焼（ひもろぎ）」
- フランス料理「ヴィ・ザ・ヴィ」 ●テラスレストラン「フェリエ」
- ラウンジ「クー・オ・ミディ」 ●中国料理「花蘭（かかん）」
- メインバー「ムーンシャイナール」

京都ブライトンホテル
〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411(代) FAX.075-431-2360
ブライトンホテルズホームページ
<http://www.brightonhotels.co.jp/>

得なかつた日蓮宗の寺院が戻ってきたことによります。

妙覚寺は聚楽第の裏門を移したと伝える大門を始め、五棟の堂宇が京都府指定有形文化財に指定され、その由緒を誇っています。南北朝時代の永和四年（一二七八）に龍華院日実が四条大宮に創建した後、二条衣棚に移り、天文五年（一五三六）の天文法華の乱で他の日蓮宗の寺とともに延暦寺の僧徒による焼き討ちにあいませ。再興したあとも、天正十年（一五八二）には織田信長の嫡子信忠の陣所であつたところから、信長を襲つた明智光秀に攻められ、又々焼けてしまいました。やがて文禄元年（一五九二）に至つて不受不施説を唱えた日奥よつて再建されます。さらに天正十九年（一五九一）、秀吉の市街地改造により寺之内通の北の現在地に移されました。

その西、小川通を越えたところに扇町児童公園があり、公園の東

端を小川が流れ、ここに扇町橋という石橋が架かつていました。その先は扇凧子と呼ばれました。

新しい堀川通の東側には、大応寺と水火天満宮、西側には興聖寺があります。これも本誌二二号の堀川通で取り上げています。



水火天満宮



堀川通りを越えると芦山寺通の名でも呼ばれていたようです。正式の芦山寺通は大宮通から始まる一筋南の通りで、千本通まで一直線に西進します。上御霊前通をさらに西へ行くと社横町をはじめ社とつく町が四つありますが、いずれもここに鎮座する榎谷七野神社に由来します。この付近の紫野・上野・柏野・北野・平野・蓮台野・内野という七つの野を七野といいました。貞観元年（八五九）に文徳天皇の皇后明子が安産を祈つて春日の神を勧請し、さらに伊勢・八幡・加茂・平野・松尾・稻荷の天神を加えて七の社ななやしろとしたとも伝えられています。

この榎谷七野神社の石垣には家紋が彫られています。このような大名の家紋を見ることは秀吉の土木工事に関わる石垣に多く、秀吉の命で修復に参加した諸大名の



新・古茶道美術品

清昌堂
やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル
〒602-0061 TEL (075) 431-1366
FAX (075) 431-1370
東京店・東京都新宿区市ヶ谷甲良町1-8
〒162-0856 TEL (03) 5261-4566
FAX (03) 3235-5677



賀茂齋院跡碑

またこの地は平安時代に賀茂河
社に奉仕された斎王の紫野齋院の
寄進印だとされています。



榎谷七野神社

跡とされ、最近その記念碑も立て
られました。葵祭を前に斎王代を
勤める女性が参拝、茶を献^{ささ}げて当
日の無事を祈る儀式も行われるよ
うになりました。
この先で上御霊前通は行き止ま
りになります。
なお本稿で鴨川と賀茂川を使い
分けていますが、高野川との合流
点より上流を賀茂川、下流を鴨川
と表示されています。川は合流す
るにしたがって名前が変わるので
す。

歴史文字シリーズ

漫 浪 達 伝

『ハゲタカの碑』一権力のしるしとして、手にして敵を屈服させると記されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御霊前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail:info@wako-print.co.jp

京料理
京都 祇園 はなさと

花郷

京都・四条花見小路通下ル西側三筋目角
電話〇七五―一五六―一三三二一(代番)



上京の町家

瀬川家住宅

上京区妙心寺道天部道西入堀川町

上京区の西南端あたり、御前通、妙心寺道、天神道というような社寺への街道筋が交わるころには、今も多くの古い町家が保存されている。その中にひととき目立つのが、この瀬川家住宅である。平成十七年国の有形登録文化財になったことにより、その文化財としての価値が評価され、今復原修復の工事が進行中である。

当主の瀬川定興さんにお話をうかがう。二階建土蔵には宝永七年（一七一〇）菱屋六兵衛の墨書があつて、その由来を知ることができると、主屋はそれよりあと、江戸時代後期と推測されている。母屋は虫籠壁を表にしたつし二階の平屋建で、その両側に防火壁を兼ねた卯建が設けられている。卯建は大和棟にも見られるが、多大の工費が要るところから「うだつが上がらぬ」という俗言も生まれたという。二階は屋根裏として物置や寝間に使われたから、居室は一階に集中している。通り庭に「七つかまど」が原形のまま残され、半円形に並ぶ大きさの違う竈は一人異なる火加減を見ることができ先人の工夫である。

菱屋は西ノ京村の庄屋を勤めた家で、その蔵には当時の人別帳などが残されている



という。瀬川家は百五十年ほど前に買い取って住まわれ、一時は解体も考えられたようであるが、代々のこの家の当主の思い入れによって後世の大工仕事を見直し、今、京都で町家の再現に取り組む大工の集団「京町家作事組」の技術によって修復に当たっている。その瀬川さんの心意気を知って、京都にはこのような町家を愛する人がおられることに、上京の町家の保存も前途が見出されたような思いに浸らされた。

上京の埋蔵文化財

—平安宮の朝堂院の調査から—

「平安宮とその周辺」

平安京の南玄関口には巨大な重層の門、羅城門らじょうもんがそびえている。これをくぐると二十八丈（84メートル）の道幅を持つ京のメインストリート、朱雀大路すじゃくおおじが一直線に北へ延びている。こ



図1 平安宮上空より東を望む（1987年撮影）



の大路を歩くことおよそ1時間、正面には再び巨大な門（朱雀門）が行く手を遮る。この奥が平安京の中枢部、平安宮である。宮は東西三百八十四丈（1、163メートル）、南北四百六十

丈（1、392メートル）、総面積約四十九万坪（160ヘクタール）の広さがあり、その中に天皇の御所である内裏だじり、政治の中枢である朝堂院ちやうどういん、豊楽院ふうらくいん、二官八省の諸官しよかんが存在していた。その範囲は現在の京都市上京区と中京区にまたがり、北は一条通、南は二条通り、東は大宮通、西は御前通に囲まれた区域に相当する。

現在、この周辺は宅地化が進み、個人住宅や小規模な店舗が密集した地区となつて

図2 平安宮復元図（数字は調査地点を示す）

いる（図1）。平安宮の遺構はこうした街並みの地下に眠っている。したがって一回に発掘調査で

きる面積が極めて限定されたものとなっている。調査面積一〇〇平方メートル以下、わずか30平方メートルといった調査もこの地区では多い。広大な平安宮に比べればまさに点である。こうした点のデータを集積し、点から線、線から面へと遺構の状態を復元した結果、現在では宮内の区画や建物の配置が徐々に明らかとなっており、正確な復元図もできている（図2）。

もう一つ忘れてならないのが、上下水道、電気、ガスといった公共事業に伴う立会調査である。工事は大半が道路部分で行なわれ、しかも連続的に開削していくので、地下の遺構や土層の状態を観察するには都合がよい。これらの工事現場にお邪魔して記録させていただくのである。また、民家の建て替など民間工事に伴う立会調査も実施している。もちろんこれらの成果も集積され、発掘調査の成果と合わせて平安宮復元の有力な基礎データとなっている。

朝堂院の調査

2006年2月に、上京区下立売通千本東入る中務町で実施した調査は、平安宮調査の典型例である(調査1)。丸太町通りに面した敷地面積130平方メートルほどの土地が再開発されることになり、上述の復元図に照合した結果、ここが朝堂院の北面回廊部分にあたることから発掘調査されることとなった。京都市埋蔵文化財調査センター(現文化財保護課)の指導のもと、私の所属する(財)京都市埋蔵文化財研究所が調査を担当することとなった。

調査前までに調査計画書の立案、土地の所有者との打ち合わせ、周辺の方々へのご挨拶、作業員、掘削のための重機の手配など、わずか三週間程度の調査であるが準備にはなかなか手間がかかる。まず現場では、調査区を設定することから始まる。周辺住宅との控え、

仮設事務所の設置場所、掘削土の仮置き場所など確保すると、調査できる面積は約70平方メートルである。

そして、いよいよ調査開始。重機(小型のバックホー)を導入して、表土を掘削する。調査担当者最も緊張を強いられる瞬間である。地層の色・土質、中に含まれている遺物の時期などを見分け、目的の遺構が存在する地層を判断しなければならぬ。掘りすぎると当然遺構が壊れてしまう。また、掘り足りない作業日数、強い掘削費用に影響を及ぼす。調査員の知識と技量が試される時でもある。

当然、周辺の調査成果などから、今回の調査で予想される遺構までの深さ、土層の状況は頭に入れている。ところが、今回、重機掘削を開始すると予想もなかった砂礫層に直面してしまった(図3)。出土遺物や土層断面を観察するが、判断が付かない。こうした

時、頼れるのが経験豊富な上司である。すぐに連絡し、相談の結果、半分だけ砂礫層を残し、調査を進めながら様子を見ることにした。

そして、調査も終盤になったが、平安時代の遺構は全く検出できな



図3 調査区全景(北から:調査区右半が砂礫層)



図4 朝堂院回廊の痕跡(南東から)

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社 京都市中京区烏丸通三条下る ☎075(221)-4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

公益社北ブライツホール(堀川黎明)	京都市北区黎明通堀川東入 ☎075(414)0420
公益社中央ブライツホール(五条大和大路)	京都市東山区五条通大和大路 ☎075(551)5555
公益社南ブライツホール(堀川八条)	京都市南区堀川通八条下る西側 ☎075(662)0042
公益社西ブライツホール(五条西大路)	京都市右京区五条通西大路西入南側 ☎075(322)0042
公益社宇治ブライツホール(宇治横島)	宇治市横島町(文教大学前) ☎0774(20)0042
公益社滋賀ブライツホール(大津)	大津市朝日が丘1丁目 ☎075(523)0042

かった。そこで調査区と道路までの間にわずかに残された空間を拡張することにした。幸い調査日程にも余裕がある。早速、土地の所有者に連絡を取り了解を得た。

拡張を開始するとすぐに、前述の砂礫層を掘り込んで、黄褐色粘土層からなる溝状の遺構が顔をのぞかせた。幅0・3メートル、延長1・5メートルほどのささやかな遺構である(図4)。これを測量し、復元図と照合すると、朝堂院の北面回廊の北側基壇の位置とぴったり一致した。出土した遺物も平安時代のものである。こうしてついに、朝堂院北面回廊の遺構を発見することができたのである。

結果的にこの調査で検出した遺構・遺物はごくわずかであった。けれども平安宮を復元する上で重要な定点を押さえることができた。

【平安宮の主な発掘調査】

次に、平安宮内の調査で大きな調査成果をあげた調査をいくつか

紹介してみよう。

朝堂院ちようどういん

宮の中心である朝堂院は八省院とも呼ばれ、八省の役人の執務場所であった。この推定地である上京区千本丸太町上ル小山町で1984年に調査が実施された(調査2)。わずか36平方メートルの調査であったが、平安宮の朝堂院の北側に付属する大極殿院の北面回廊の基壇がみつかった。基壇は凝灰岩を積み上げて周りを化粧する壇上積だじょうみと呼ばれる型式のものである。凝灰岩は丁寧加工され、残りのよいところでは



図5 大極殿院北面回廊の基壇(北東から)

3段遺存していた(図5)。また、1994年には千本丸太町の交差点付近で実施したN・T・Tの電話線埋設工事の立会調査(調査3)で、朝堂院の正殿である大極殿の基壇土が発見された。ちなみに大極殿は現在の国会議事堂に相当する建物で、岡崎にある平安神宮の拝殿はこの建物を8分の5に縮めて復元されたものである。

豊楽院ぶらくいん

豊楽院は朝堂院の西側にはほぼ同じ規模をもって造営された施設で、大嘗祭だいじょうさいや年中の諸節会が催されたところである。

1987年から88年にかけて中京区聚楽廻西町で、豊楽院の正殿である豊楽殿の一部が発見された(調査4)。発見されたのは基壇の北西部で、基壇の周囲には凝灰岩の化粧が施され、基壇上には東西方向に4間分の礎石を据え付けた穴がみつかった(図6)。周辺での調査成果と合わせて、豊楽殿の規模は桁行き9間、梁行4間の四面庇付東西建物であることが

わかった。また調査では緑釉りよくゆうを施した瓦が大量に出土しており(図7)、屋根には緑釉瓦が葺かれていたことがわかった。ただし、緑



図6 豊楽殿基壇検出状況(北西から)



図7 豊楽殿出土の瓦類

釉は軒の瓦と丸瓦・熨斗瓦に限られ、全体が緑釉瓦で葺かれている平安神宮の拝殿の型式とは異なることがわかっている。ここから出土した緑釉瓦などの一群は2005年度に国の重要文化財に指定されている。

内裏 内裏は天皇の住まいで宮域の中央北東よりに位置している。上京区下立売通千本東入ル田中町で1984年に実施した調査（調査5）では内裏内郭の正面に当たる承明門しょうめいもんに関連する雨落を發



図8 承明門の雨落溝（北西から）

見している（図8）。この下層には4基の地鎮めの遺構があり、密教法具りんぼうの輪宝りんぼうと椀けつや金粉・琥珀・ガラスなどの宝物が納められていた（図9）。また、同じ田中町で1994年に実施した調査（調査6）は面積はわずか25平方メートルほどであったが、内郭回廊基壇とそれに伴う雨落溝が発見された。この溝は、表面が平らな自然石を敷き詰めて作られ、基壇には凝灰岩を加工した化粧が施されていた（図10）。



図9 地鎮め遺構（北から）

今年、（財）京都市埋蔵文化財研究所が設立されてから30周年の節目の年を迎える。これは京都市内における埋蔵文化財調査の歴史そのものでもある。その中で、昨年2005年10月までに、研究所では平安宮域で約120件の発掘調査を実施し、調査面積の累計はおよそ26・000平方メートルに達し、遺物は整理箱に8、600箱出土している。しかしな



図10 内裏内郭回廊の基壇と雨落溝（北東から）

— おわ—り—に—

がら、これは平安宮全体の面積のわずか1・6%にすぎない。まだまだ、地下には残された埋蔵文化財が日の当たる時を待っている。埋蔵文化財の保護はその地域のみならずご理解とご協力が必要、かけがえのない平安宮を保護するためご協力をお願いいたします。

（財）京都市埋蔵文化財研究所

吉崎 伸

お気軽にご相談下さい！/ 賃貸・売買から建築・リフォームまで。

ERA
MAXシステムグループ

株式会社 ハウズ

0120-4970-26

〒606-0864
京都市左京区下鴨高木町6
TEL.075-706-1715 FAX.075-706-1714
URL: <http://www.erahowse.com>

三月二十八日に上京区文化振興会と上京区役所の共催による「京菓子教室」が開催されました。今年で三回目となるこの教室は、「俵屋吉富」京菓子資料館に場所を借りて、春休みに親子で楽しくお菓子を作る体験学習です。



春・休・み 親子も菓子教室

館内ではお抹茶の接待を受け、貴重な展示品を見学した後、「俵屋吉富」の菓子職人から、季節の和菓子作りを教わりました。出上がった生菓子は色合いも鮮やかで、春らしい仕上がりとなりました。



恒例の「上京茶会」は上京区文化振興会と上京区役所の共催により5月14日に開催されました。大本山妙顕寺を会場とした今回のお茶会は表千家の懸釜で行われ本席・副席の2席でお茶を味わうことが出来ました。広い境内の落ち着いた雰囲気の中で440人を越える参加者は新緑の美しい庭園を眺めながら心おだやかな時間を過ごすことができました。

上京茶会 Tea Ceremony



憲・法・月・間

映画のニュース



五月憲法月間の取組として、五月二十五日に同志社大学寒梅館ホールにて、上京区民ふれあい事業実行委員会主催、同志社大学学生支援課共催による映画「誰も知らない」が上映されました。

この映画は実際の事件をモチーフとして、母親に置き去りにされた四人の子どもたちだけで生活を続ける姿を描いており、会場には約千名の来場者が訪れ、子どもの人権について改めて考えさせる上映会となりました。

宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

くつろぎ ¥4,200(税サ込)



ホテル ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160 <http://www.rubino.gr.jp/>



ゆどうふ、ゆばなべ
南禅寺 **ゆるせい**

左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311
<http://www.to-fu.co.jp>

酢一筋の商い、伝統の滋味。

伝統から未来へ

京・西陣 孝太郎の酢

(有) 林孝太郎造酢

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455

TEL (075) 451-2071

FAX (075) 451-8028



「上京史蹟と文化」は上京区役所まちづくり推進課で販売致しております (TEL 441-5040)

花にまつわるエピソード…
季節も添えて演出します。



心のごもった贈り物 Flower Gift

花束 アレンジメント グリーンバスケット スタンド花 etc

フラワーアレンジメント教室 開催中!!!



本店 京都市上京区丸鳥通今出川下ル
TEL.075-414-8700(代) FAX.075-414-7787
フリーダイヤル 0120-46-8700
URL:<http://www.hanakobo.co.jp>

長岡店 長岡京市1丁目セブン通り
TEL&FAX 075-957-0187
大津店 大津市萱野浦 ロイヤルオークホテル内
TEL&FAX 077-545-5587

本店2FにてCafeも営業しております。



創立以来七十余年にわたって、和やかな家庭的な雰囲気にもまれつつ就学前教育の本流をめざして、保育を続けて参りました。幼児たちは楽しい遊びを通して、人生に必要な生きる力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)

http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/

京銘茶
雲龍



創業宝曆五年 宮内庁京都御所御用

京菓子司 俵屋吉富

本店 京都・室町上立売 電話 (432) 2211 代
烏丸店 京都・烏丸上立売 電話 (432) 3101 代

いつまでも健康に——。
サン・クロレラ

安全真話

安心のために。伝えたいのは「真実の話」です。



サン・クロレラAは日本製法特許No.3143636、
米国製法特許No.5330913を取得しています。

食品の安全性に対する「神話」が崩れだしている現在…。消費者の皆様が目が厳しくなる中で、私たちはあえて伝えたいことがあります。創業以来、品質にこだわり続けたサン・クロレラは「安全」に対する厳しさを知っているということ。その結晶のひとつが「サン・クロレラA」。すべてを自社責任のもとに開発から製造まで管理し、GMP認定工場*で厳重な検査のもとに生産しています。さらにお届けに関しても自社グループにより直接お客様のお手元へ。製品の正しいご理解と安心してご利用いただくためのアフターフォローも行っています。おかげさまで30年以上にわたってご愛顧いただき、お客様は日本だけでなく世界の国々へと広がっています。もし品質にわずかな不安でもあれば、これほど長い間にわたり愛され続けることはなかったでしょう。安全のために努力を惜しまないという「真実」。これこそがお客様の求める「安全真話」に込められる理由です。

*財団法人健康・栄養食品協会のGMP基準に合格した認定工場。



サン・クロレラAは日健栄協に認定されています。

財団法人日本健康・栄養食品協会の認定マークは、品目別規格基準に基づき、協会の厳正な審査をパスした製品に対してのみその表示が許可されたものです。サン・クロレラAの製造工場はISO9001の認証を取得しています。

株式会社 サン・クロレラ

〒600-8177 京都市下京区烏丸通五条西南角(サン・クロレラ本社ビル)
TEL.075-288-3040 FAX.075-288-3041